

前橋市報

前橋市報編集人 松田徳松
 前橋市報社 前橋市新町
 印刷所 前橋市上野町
 行所 前橋市上野町

第四十號



お米の配給方法變る 年四回の特別整理があります

従来の配給登録店は、現在市内に六十九軒ありますが先月配給の取扱が改められ、同月の特別措置として、一月中に消費者が買受けなかつた分は、一應二月末まで打ち

られ、この三月一日 からは次の通り配給されることになりました。

① 今後は年四回(二月、五月、八月、十一月の各五日)配給の特別整理が行われます。

市税完納者の集い 今月第四回の催し

完納くじ抽籤・演藝も盛澤山に

市では毎年市税完納者のついでを催して居りますが、今年はその四回(ついで)を市と納税運動前橋市支部の共催で三月二十五日(日)前橋市公会館で開催の手定にしてあります。

- △一等 洋服豆蔵 (一五本)
- △二等 洋傘、御飯かかし、電気アイロンすれか一品 (二五本)
- △三等 小供用番書、牡丹類、化粧石けん(六ヶ入)、フライパンすれか一品 (三〇本)
- △四等 各館交通機関招待券(二、五〇〇本)

市長と納税運動前橋市支部長の挨拶の後抽籤を行い、余興として漫談、漫才、アクロバット、腹話術、浪曲、歌謡等の演藝があつて会を閉じることになり居ります。抽籤は三月二日現在に於ける市税完納者(一人を重複する時は、重複分を除きます)に對しあらかじめ各町駐在員を通じて

賞品は以上の翌日から四月十五日まで市税所分務科相談所で引換を行つて下さい。なおついでに開催日取は決定次第、適当な方法

季節の變り目には…
 健康に充分注意致しまし
 しょう
 流行性感冒にかゝらぬ
 様に注意しまし
 しょう

市税は

市政を動かす力であり、市政を明るくする光です。
 期限内に、ぜひお納め下さい。

市立産院で婦人衛生相談

かねて市民の皆さんから頼り利用されておりました前橋市の市立産院は近代的な科学的診察を実施するため、今回院内の改築工事を行いました。が同院の一般診療(産科、婦人科)は毎日午前九時から午後五時まで(急患は随時)で、気軽に御利用出来る様になりました。なお特に市民皆さんの御要望により毎日午後一時から婦人衛生の無料相談を致して居ります。(市立産院)

は、転出月の分だけ配給します。

① 転出の場合、消費者が当月分又は当月を含む前月の未受配分を受けない場合は「配給辞退」として処理されますから御注意下さい。

② 世帯全員転出する場合は、転出地に於てその通帳を使用することになります。

③ 消費者が保安関係各部隊、矯正保護施設、海上保安大学校、同訓練所及び病院へ転出する場合は、転出月の配給分のうち、本人の希望による配給数量により処理されます。

④ 転入の場合は前住所の転出月の翌月分から配給を開始します、但し転入の届出が転出月の翌々月以降の場合は、届出月の配給分から配給されます。

⑤ 出生、死亡の場合は、従前の通帳です。

大体以上 改正されましたから、その月の配給は、その月のうちに配給を受けられるよう希望いたします。(市立産院)



煙突の不完全が危険 出火の原因は大部分が過失！ 乾燥つゞきの折柄注意しましょう

昨年中本市内で発生した火災は実に四十件にも上りましたが、それによつて焼けたのは
全焼三百七棟半焼四百四棟（うち
廿二月二十日の前橋校舎
三棟一、五八三坪を含む）延一
七四五坪
で、その損害額は四千四百六十七
万五千七百円に上り（一昨年に比
し四千一百三十一万円を増してお
ります。）とは非常に遺憾に堪え
ません。しかしこの火災の原因が
何れも少しの不注意からであつた
ことを思ふと、日常の用心一つで
火災は充分防ぎ得たことと思われ
ます。原因を細別しますと
煙突の不完全七、コタツ六、カ
マドの取灰五、残火焚火四、た
ばこ一、油類二、マッチ一、弄
火一、電熱器一、ストーブ一、
アイロン一、その他
となつて居り、發生は十二月の八
件、一月の七件、二月五件、三月
六件等が多く他は三件以下となつ
て居ります。今年になつてからも
すでに二百二十日現在で八件もの
火事があり、その損害も二百六十
万三千円になつて居ります。今年
は例年になく乾燥つゞきであつた
ため、三月前後の季節風の強い時
には、余蘆用心しないと天火事件
を惹起すことがありますが充分
御注意下さい。殊に火災原因中で
一番多い煙突の加熱や火の粉の飛
散は最も危険ですから、湯釜、炊
事場等に煙突のある御家庭はよく
れぐれも御注意下さい。
なお火事の際は、少しも早く電
話一一九番へ知らせ頂くと
が何より必要で、番頭の早さと
通報の早さが火事を小さくする
か、大きくするかのわかれ目
になります。
又火災場所の問合せはすべて市役
所（電話四、三〇一番か四、五〇
一）でお答え致しますから、こ
れだけは準備消防にかけないで下
さい。（保安課）
写真は煙突の加熱から発火した
最近の事例上の×印煙火箇所、
下の×印延焼箇所

赤痢疫病が多い 本市の 伝染病 昨年中の罹病者に保菌検査

本市の伝染病患者は、昭和二十五
年以來、年々減少を示して居りま
すが、これは市民の皆さんの衛生
に関する注意のあらわれであつて
まことに喜ばしいことではなかつた
十五年には二八八名発生した患者
が二十六年には三三二名となり二
十七年には三二七名になりました
二十六、七両年の患者発生数を比
較して見るに次の通りですが、伝
染病中一番沢山発生するのは矢張
り赤痢、エキリでありますから、
今年もこれら消化器伝染病には、
充分注意して離らないように致し
まいませう。
計 二二二 二二七
本市では予防のため、昨年消化
器伝染病になつた人とその家族の
八一九世帯二千二百九名の方々
の保菌検査（検便によつて菌があ
るかいないかをしらべる）を二月中
に行ひましたが、伝染病はこれか
ら四月の花時にかけて発生する恐
れがありますから一般市民の皆さん
が、揃つて御注意下さる様希望
致します。今年は今迄のところ、一
二月中に疑似赤痢が一名発生（既に
全快）しただけであります（衛生課）

患者数	廿六年の	廿七年の
赤痢	一五三	一四八
疫痢	五五	四七
腸チフス	三	二
パラチフス	三	一
傷寒熱	七	一
ジフテリア	四	一
日本腦炎	一	一
髄膜炎	二	三

他市に比して低い死亡率

本市の伝染病患者が、昨年は減少
を示したことは別項の通りですが
患者の死亡率から見ればどう
かと言いますと、これも二十六年
より二十七年は非常に低下したの
です。
二六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
二七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
二八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
二九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三十年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
三九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
四九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
五九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
六九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
七九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
八九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九一年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九二年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九三年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九四年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九五年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九六年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九七年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九八年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
九九年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)
一〇〇年の 患者数 一三三 死亡率 (11.3%)

蠅を退治 致しまし しょう

越冬蠅の駆除は、一月か
ら、市内を三区にわけて行ひ、二
月には事業所、学校等にも行ひ好
成績を取りましたが、今月は次の
通り各町で行ひます。この駆除は
市衛生課が主体となり、各町衛生
班長さんの協力を得て行ひますが
蠅は春から夏への伝染病最盛期に
病気を蔓延せしめる媒介となり、
寒い時は蠅は日当りのよみ障子や
障子の捨置や便所の附近の土砂の
中等で越冬し、成虫は温かい天
井裏や白当りのよみ障子の床下等
で越冬します。ですから、今の方
きに、これらの蠅や成虫を見つけ
て退治することは、それだけ夏の
蠅を少なくするわけで、
駆除の方法は、各家庭の
便所の汲取口附近を掘り起し、ミ
ケール溶液（五十倍）を撒布し
殺菌していた蠅は、かき集めて三
十センチ以上の穴を掘つて埋め、
その上をふたつめます。又成虫は
天井板、畜舎その他日当りのよみ
障子に居りますから、これは薬品を
撒布して駆除します。こうして二
匹ものがさずに駆除しようとする

町名	日
小柳町	三月五日
園領町	同六日、七日
萩町	同九日、十日、十一日
三七岩神町	同十日、十一日
三八岩神町	同十日、十一日
翠平町	同十四日
四〇紅葉町	同十五日
四一紅葉町	同十六日
四二前代田町	同十七日
四三代田町	同十八日
市之坪町	同十九日
家南分町	同二十日
四六六供町	同二十日
四七六供町	同二十日
天川原町	同二十四日
高田町	同二十五日
夷町	同二十六日

市議会議員信沢忠八氏は一月二十
八日横浜市に於て病気のため死去
されました。願ひで弔意を表し
ます。信沢氏の死により市議会
議員は三十五名となりました。

